

立田山生物多様性ガイドブックをつくろう

熊本県立熊本北高等学校
数理探究 生物1班

1. 研究の動機

- (1) 身近な立田山の植生を知る。
- (2) 野生植物について詳しく知る。
- (3) 立田山の生物多様性を知る。
- (4) 生態系の季節の変化を知る。
- (5) 北高生に立田山を紹介する。

2. 研究の仮説

立田山には、気軽に自然を満喫できる自然遊歩道がある。北高は立田山の一角にあるが、立田山の魅力を知る生徒は少ないと考える。北高生が立田山の自然を知ることによって、自然保護に対する理解をより一層深めることができると考えた。

3. 方法

- (1) 調査対象となる登山ルートを設定する。
- (2) 設定ルートにおける植生の調査を行う。
- (3) 設定した登山ルートを北高生に紹介するパンフレットを作成する。

4. 立田山について

熊本市の北東に位置する標高152mの小高い丘陵状の山である。周辺には自然公園が整備され、1万2000mある遊歩道を森林浴しながら散策することができる。4つの散策ルートが設定されている。

5. 「北高コース」の設定

インターネットの地図アプリケーション等を参考に北高、山頂に至る「北高コース」を設定した(図1~5)。また、コース内の景観を元に9エリアに分け、各エリアの植生を調べた。

6. 植生調査の結果

夏季5回、秋季1回植生調査を行い、結果は下表1に示した。なお、観察した植物は写真撮影を行い、Google検索機能を用いて同定した。

表1 各エリア毎の植生調査結果

地点	夏季(7~9月)				秋季(11月)			
	①	ムラサキツユクサ	エビスグサ	ヤマブドウ	ヤマハギ	アメリカセンダングサ	オニノゲシ	
②	ミヤマワラビ	ツワブキ	ヤブラン		クサギ	ヤナギタデ	カゴノキ	
③	ヘクソカズラ	クズ	イヌホウズキ	メヒシバ	イヌホウズキ	センダングサ	カラスウリ	フウセンカズラ
	エノコログサ	ニガカシュウ	サルトリイバラ		ヒメムカシヨモギ			
④	スベリヒユ	メヒシバ	ムラサキツユクサ	サザンカ				
	エノコログサ	スズメノヒエ						
⑤	クサギ	オオバコ	コナラ	ヤマザクラ	ヒメジョオン	イヌタデ	ウメドモキ	
	ヤブミョウガ							
⑥	ヒノキ	ナナミノキ	ボロボロノキ	コナラ				
	クヌギ	アラカシ	ヤマハゼ					
⑦	スズメノヒエ	センダン	ケヤキ	エノキ				
⑧	ナナミノキ	ヒノキ	チゴユリ	イヌビワ	サルトリイバラ			
⑨	イヌタデ	クヌギ						

然観察を行うことができた。

(2) 観察できたすべての種を確認したわけではなかった。

(3) 夏季に比べて秋季では、観察された種数は少なかった。ただし、夏季と秋季の種の多様性について比較は行えていない。

8. 今後の課題と展望

現在、ガイドブックを作成している。また、2月に観察会を計画している。今後、調査回数を増やし、高度及び季節による植生の変化についても調べたい。

9. 参考文献

◇原色牧野植物大図鑑. 牧野富太郎. 北隆館



図1 エリア①舗装道路
エリア②雑木林



図2 エリア③田畑・民家
エリア④住宅地



図3 エリア⑤立田山入口
エリア⑥山道



図4 エリア⑦草原



上図1~5
各エリアの景観と地図

7. 結果のまとめと考察
(1) 北高コースを6回散策した。安心して安全に自